

[成果情報名] 秋ギク低温開花性系統「神馬2号・長崎2」の特性

[要約] 秋ギク「神馬2号」から選抜した「神馬2号・長崎2」は、切り花伸長性に優れ2月開花作型において、消灯後、夜温を14℃に設定することで、「神馬2号」より7日早く収穫でき、摘芽、摘蕾数も少ない。

[キーワード] 秋ギク、神馬2号、低温

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・花き科

[連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メール minedaiki@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

現在、現地に普及している「神馬」については、生育期間中の低温遭遇期間の程度により、開花遅延が発生する。開花遅延を防止するため、花芽分化期前後の最低夜温を18℃以上に設定するなど、燃料使用量が増加し、経営を圧迫している。

そのため、現地において、1月以降開花作型では、鹿児島県の試験場で選抜された低温開花性系統「神馬2号」が普及している。ただし、「神馬2号」は、生育のばらつきが大きく、秀品率の低さが問題となっている。

そこで、本試験場において「神馬2号」から低温開花性、伸長性に優れた、有望系統を選抜し、その栽培特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「神馬2号・長崎2」は、2月開花作型において消灯後、夜温を14℃に設定すると「神馬2号」より7日早く収穫でき、伸長性に優れ、摘芽・摘蕾数も少ないため、低温開花性を持つ優良系統と判断できる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「神馬2号・長崎2」は、現地試験を行う計画である。

[具体的データ]

表 1 2 月開花における生育開花特性

	消灯時		消灯後		開花時							90cm	
	草丈 (cm)	葉数 (枚)	収穫日	到花日数 (日)	開花日	花径 (cm)	切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	柳葉数 (枚)	葉数 (枚)	摘芽・摘蕾数 (個)	調整重 (g)
神馬2号	60.4	29.0	2月9日	61	2月16日	11.8	92.4	94.0	1.3	1.0	49.4	25.8	82.6
神馬2号長崎2	72.7	34.3	2月2日	54	2月11日	11.2	102.3	91.7	0.8	1.0	54.0	18.7	73.7

注 1) 直挿し 2006年10月10日

注 2) 電 照 点灯 10月10日 消灯 12月11日

注 3) 再電照 点灯 12月26日 消灯 12月29日

注 4) 加 温 10月10日～12月10日 5℃ (ほとんど無加温状態)
12月11日～2月16日 14℃

注 5) 燃油 (灯油) 使用量 (10月10日～2月13日) 1,183 ℓ /155 m² (圃場)

[その他]

研究課題名：無側枝性秋ギク「晃花の富士」の栽培技術確立

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：峯大樹、諸岡淳司